

第2回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会

説明資料

平成29年7月10日（月）

横浜市

国際園芸博覧会招致検討委員会 平成29年度想定スケジュール(案)

第2回 国際園芸博覧会招致検討委員会

※検討項目については、審議状況に応じて変更になります。

	国際園芸博覧会 基本構想 主な検討項目						その他
	① 開催意義	② 基本事項等	③ 事業展開	④ 会場・行催事	⑤ 関連事業	⑥ 効果・事業費	
第1回 6月5日	・開催にあたっての基本的な視点						
第2回 7月10日	・開催意義 ・テーマ整理	・開催場所 ・開催期間	・事業コンセプト	・要件整理 (会場・行催事)			○現地視察
第3回 8月24日	・開催理念 ・テーマ		・気運醸成 ・広報活動	・会場構成 ・行催事構成	・関連基盤整備		
第4回 9月予定	・開催理念 ・テーマ	・想定入場者数 ・面積規模	・理念継承 ・跡地利用	・会場計画 (配置、主要施設) ・行催事計画	・輸送・宿泊計画 ・関連施設計画	・波及効果 ・概算事業費	
第5回 10月予定	・国際園芸博覧会の基本構想素案 として各項目を取りまとめ						○市民等からの 意見募集につ いて
	市民等からの意見を募集						
第6回	・国際園芸博覧会の基本構想横浜市案 として各項目を取りまとめ						○意見募集結果 ○国への招致要 請に向けて

Contents

1 開催意義

- ・ 開催意義・テーマの方向性
- ・ 花緑・園芸の領域の捉え方
- ・ テーマ・キーワードの考え方

2 基本事項等

- ・ 開催期間に関する要件
- ・ 想定入場者数に関する要件

3 事業展開

- ・ 開催場所に関する要件
- ・ 事業コンセプト
- ・ 海外とのつながり
- ・ 横浜の市民力

第2回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会

1 開催意義

平成29年7月10日（月）

横浜市

1 開催意義

- これからの博覧会とは (第1回委員会資料より)
 <参考イメージ>

まちづくり
地域・産業

横浜・日本の
活性化

旧上瀬谷通信施設の
まちづくりの促進

横浜における
国際園芸博覧会

現在

未来へ

国際園芸博覧会の
意義

先導的な
貢献

国際的な
提案

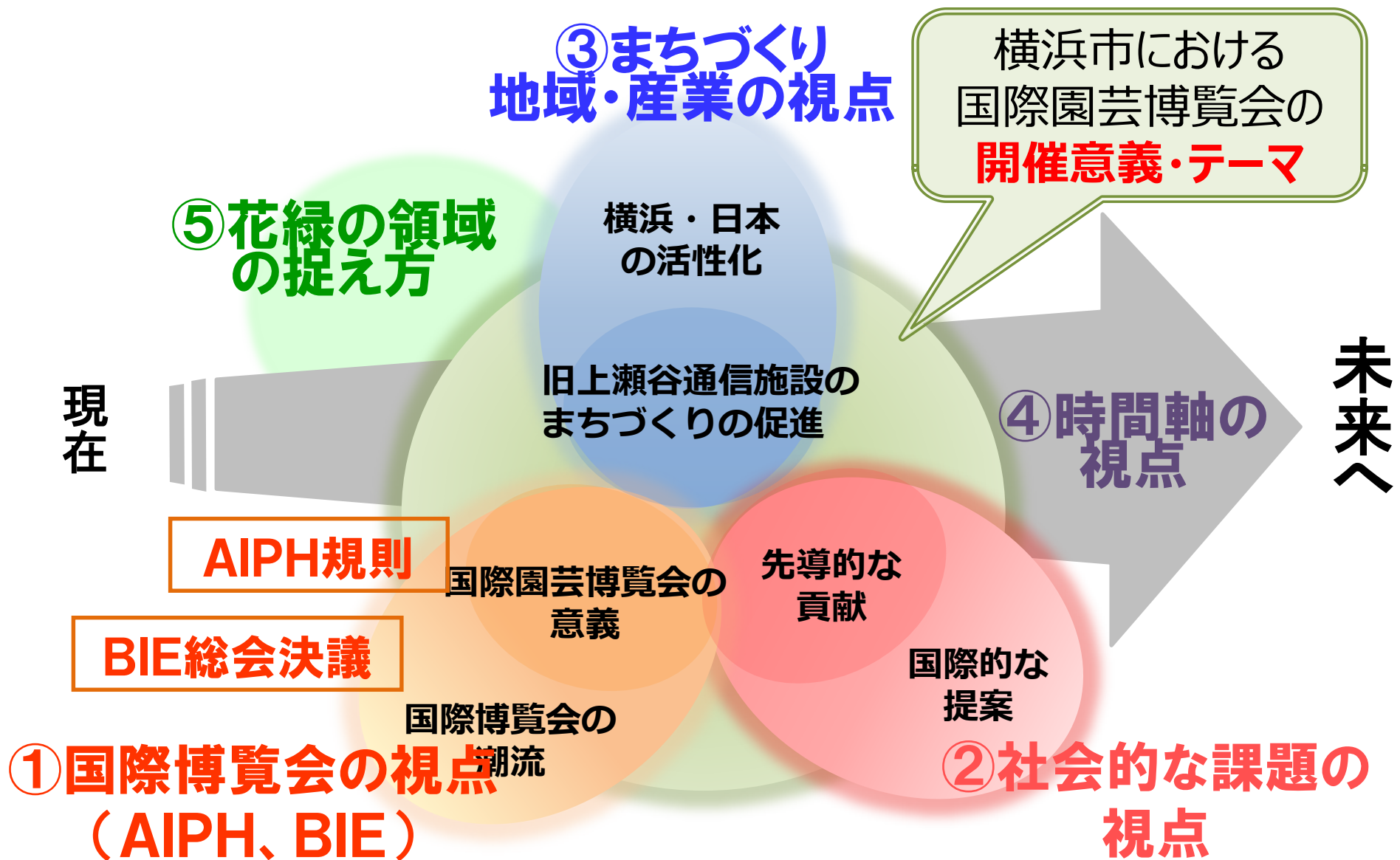
国際博覧会の
潮流

国際博覧会

社会的な課題

1 開催意義

● 開催意義・テーマの検討の流れ



1 開催意義

●① 国際博覧会の視点（AIPH規則、BIE総会議決）

■ AIPH規則より(2015年10月21日開催の総会にて承認)

- 世界各国の最高の知識と最先端の技術を推進し、かつ、文化および園芸の多様性を広める目的で、各国から優れた園芸術を結集させる
- 健康および社会福祉の向上、環境の増進、ならびに経済の強化を目的とした植物の一層の利用を増進する
- 園芸の社会的必要性、および園芸がその環境とを結びつける上で果たす役割について明確に示す
- 専門的な園芸分野において生産性および国際的な協力関係を促進する

■ 第115回BIE総会議決より(1994年6月8日)

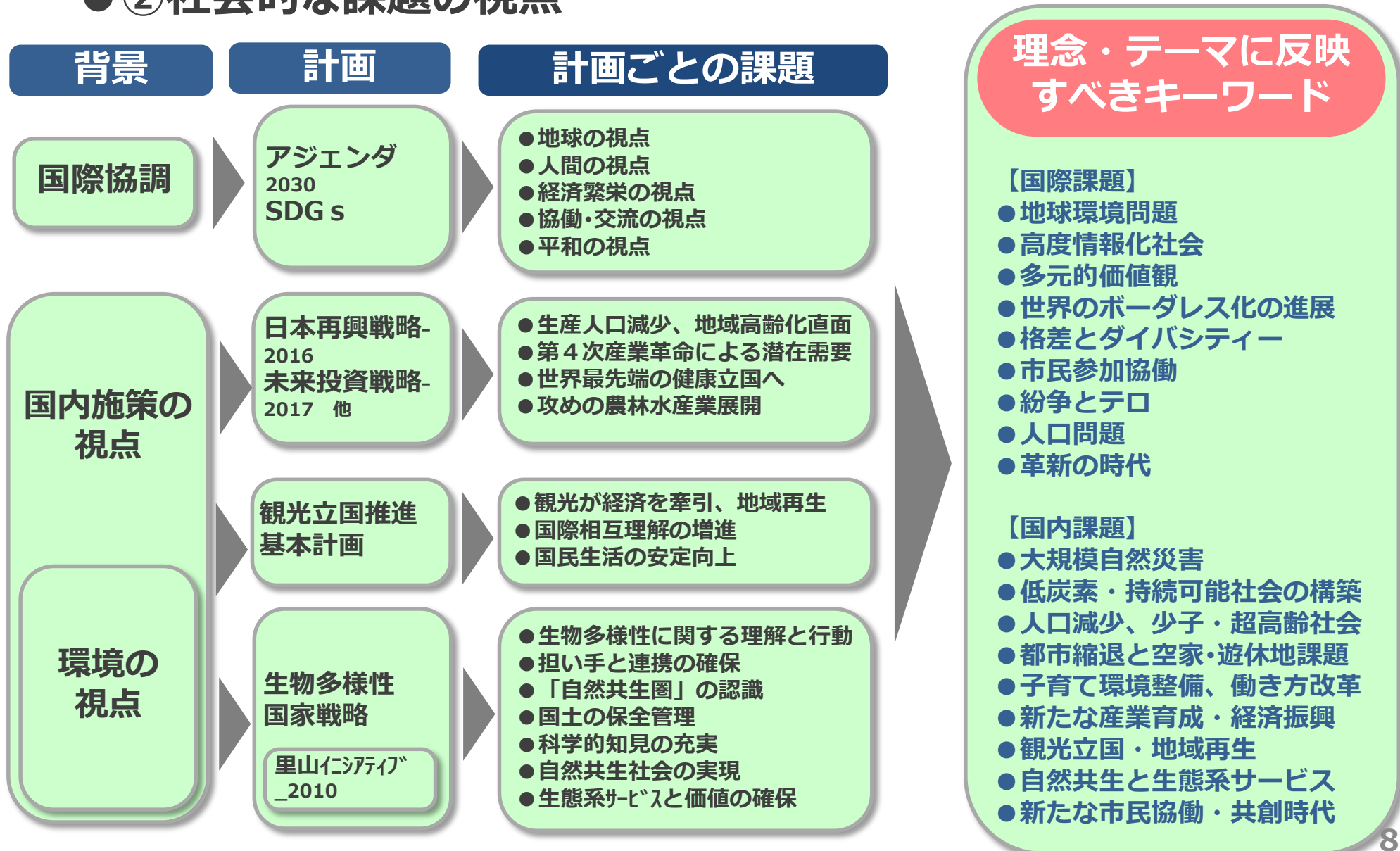
- ◎ 現代社会の要請に応えられる今日的なテーマ
- ◎ 当該分野における科学的、技術的及び経済的進歩の現状と、人類的、社会的な要求から諸問題を浮き彫りにするテーマ
- ◎ 自然環境保護の必要性から諸問題を浮き彫りにするテーマ

理念・テーマに反映すべきキーワード

- 文化及び園芸の多様性を広める
 - 世界各国の知識・最先端の技術の推進
 - 健康及び社会福祉の向上
 - 環境の増進、経済の強化
 - 園芸の社会的必要性及び園芸がその環境とを結びつける上での役割
 - 生産性及び国際的な協力関係を促進
-
- ◎ 現代社会の要請に応える
 - ◎ 科学的・技術的・経済的進歩
 - ◎ 人類的、社会的な要求
 - ◎ 自然環境保護の必要性

1 開催意義

● ② 社会的な課題の視点



1 開催意義

● ③まちづくり・地域・産業の視点 「人も企業も輝く横浜」へ

課題

- 人口減少・超高齢社会
- 少子化・生産年齢人口の減少
- 観光MICE機能の強化
- 東京一極集中
- 世界における都市間競争の激化
- 都心臨海部の機能強化・郊外部の活性化

歴史・取組

- 海外との花文化の窓口
- 先進的な緑や環境の取組
- 文化・芸術、観光MICE都市としての取組
- 「全国都市緑化よこはまフェア」による花と緑あふれる横浜の発信
- 373万人の市民力

旧上瀬谷通信施設の返還

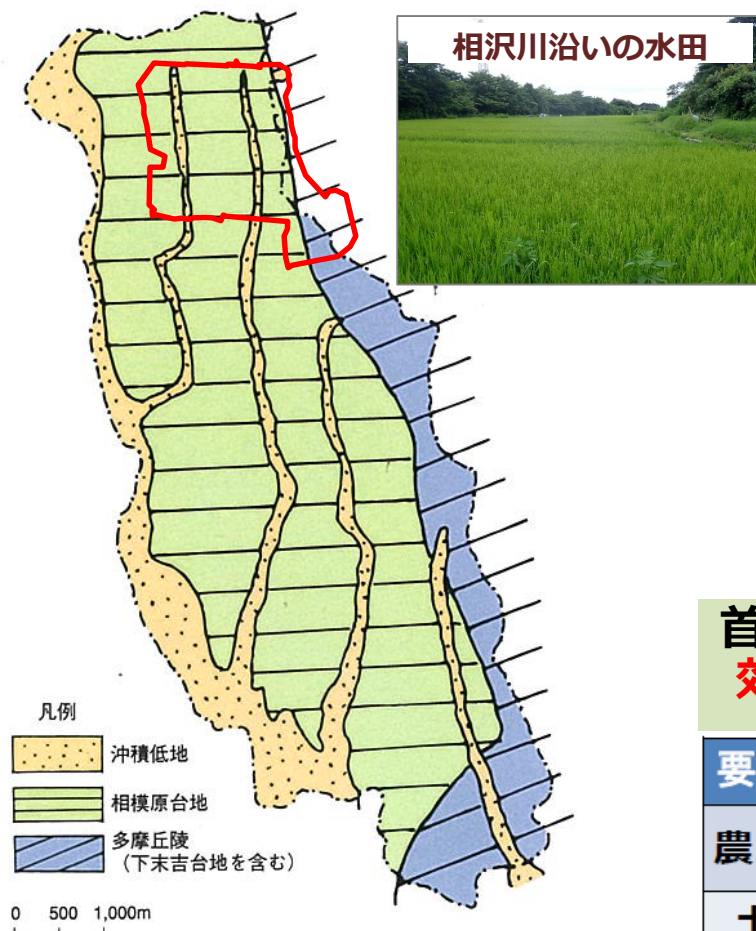


首都圏でも貴重で広大な平坦地

郊外部の活性化拠点の形成

- 広域的な課題の解決
- 観光MICE都市への貢献
- 横浜ブランド力の向上
- 地域の産業の発展

1 開催意義

● ③まちづくり・地域・産業の視点
～旧上瀬谷通信施設の特色～

瀬谷の地形区分

(瀬谷の歴史(2000)横浜市瀬谷区役所 より引用)

【地形】

- 相模原台地の平坦な地形
- 大門川と相沢川の水源地

【これまでの文化】

- 5～6世紀頃の古墳が発掘
(旧上瀬谷通信施設内 別太羅塚古墳)
- 豊かな水源から稲作が盛ん
- 明治期は養蚕業が盛ん
- 昭和初期以降は軍事施設、平成27年返還

首都圏でも貴重で広大な平坦地に、3つの要素で
郊外部の再生に資する新たな活性化拠点を形成

要素	意味	
農業振興	活力ある都市農業の展開	
土地活用	活力創造	産業振興、賑いや交流を促進 (主に民間が参入する施設を想定)
	公共・公益	本市を含む広域的課題や地域の課題を解決 (主に公共・公益的性質のある施設を想定)

1 開催意義

● ④ 新たな博覧会を通じた課題解決

社会的な視点

地球環境問題

高度情報化社会

多元的価値観

世界のボーダレス化の進展

格差とダイバシティー

市民参加協働

紛争とテロ

人口問題

革新の時代

大規模自然災害

低炭素・持続可能社会の構築

人口減少、少子・超高齢社会

都市縮退と空家・遊休地課題

子育て環境整備、働き方改革

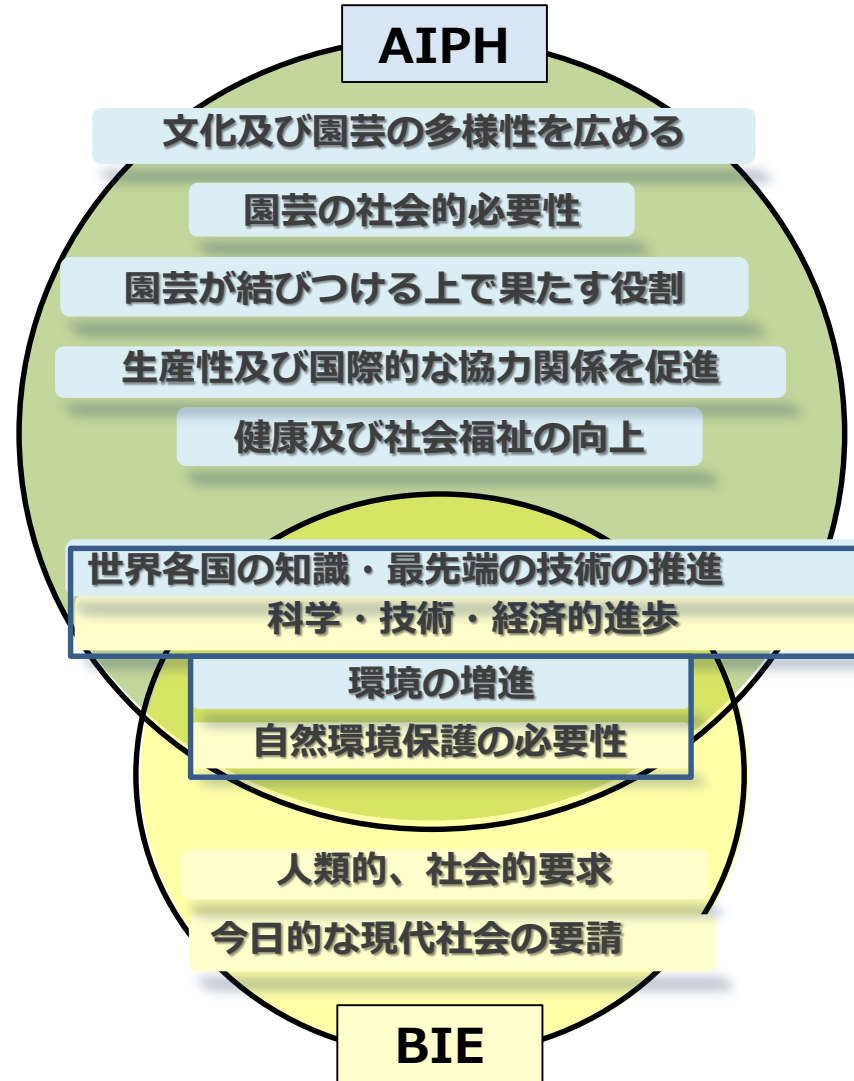
新たな産業育成・経済振興

観光立国・地域再生

自然共生と生態系サービス

新たな市民協働時代・共創時代

AIPH・BIEによる視点



まちづくり・地域・産業の視点

課題

高齢化・生産年齢人口の減少

観光MICEの伸び悩み

都市間競争の激化

郊外部の活力低下

戦略的・計画的な土地利用

歴史・取組

海外との花文化の窓口

洋種園芸文化の発信

先進的な緑や環境の取組

全国都市緑化よこはまフェア
→花や緑あふれる横浜の発信

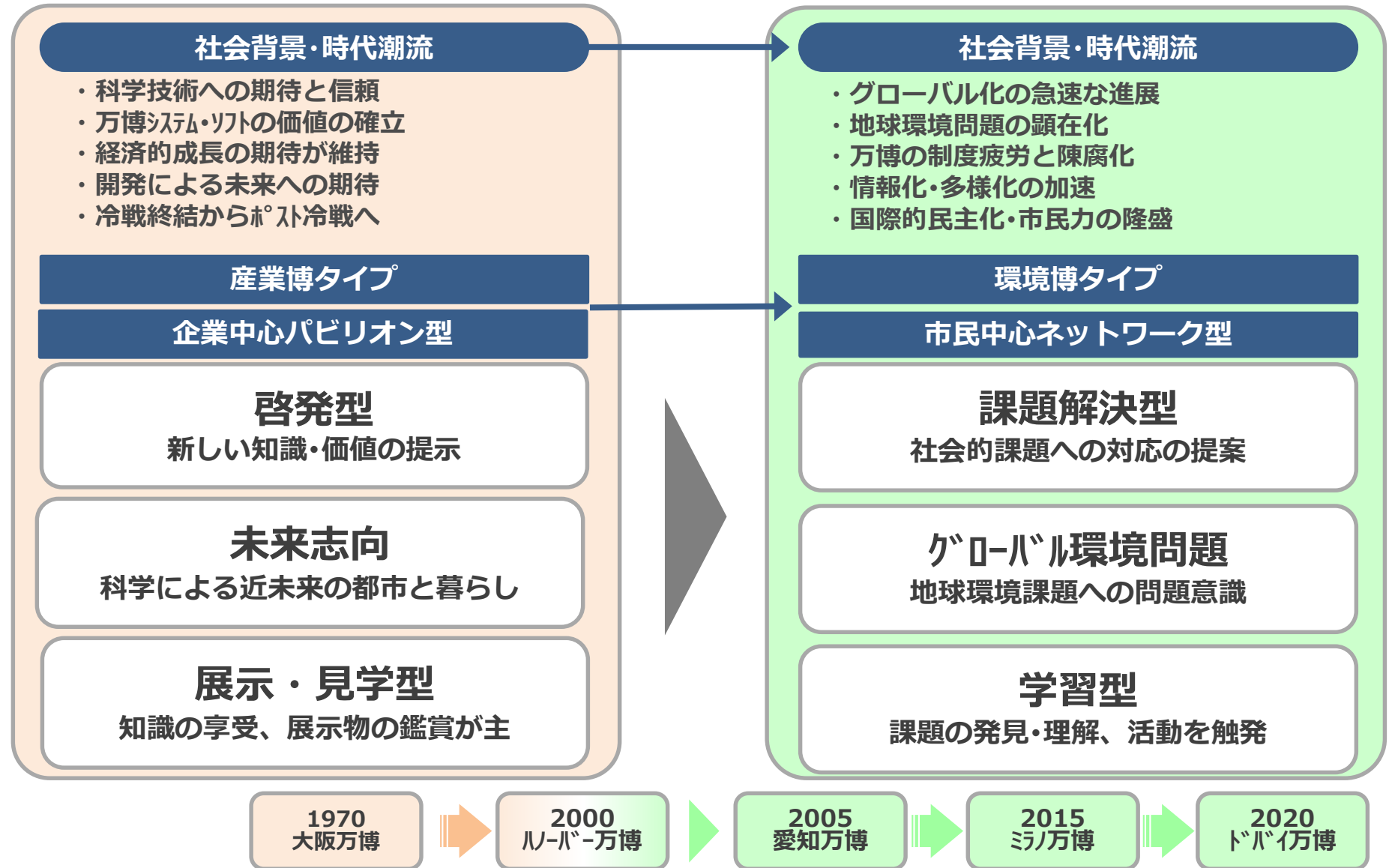
旧上瀬谷通信施設の返還

首都圏でも貴重な広大な平坦地

郊外部の活性化拠点
の形成

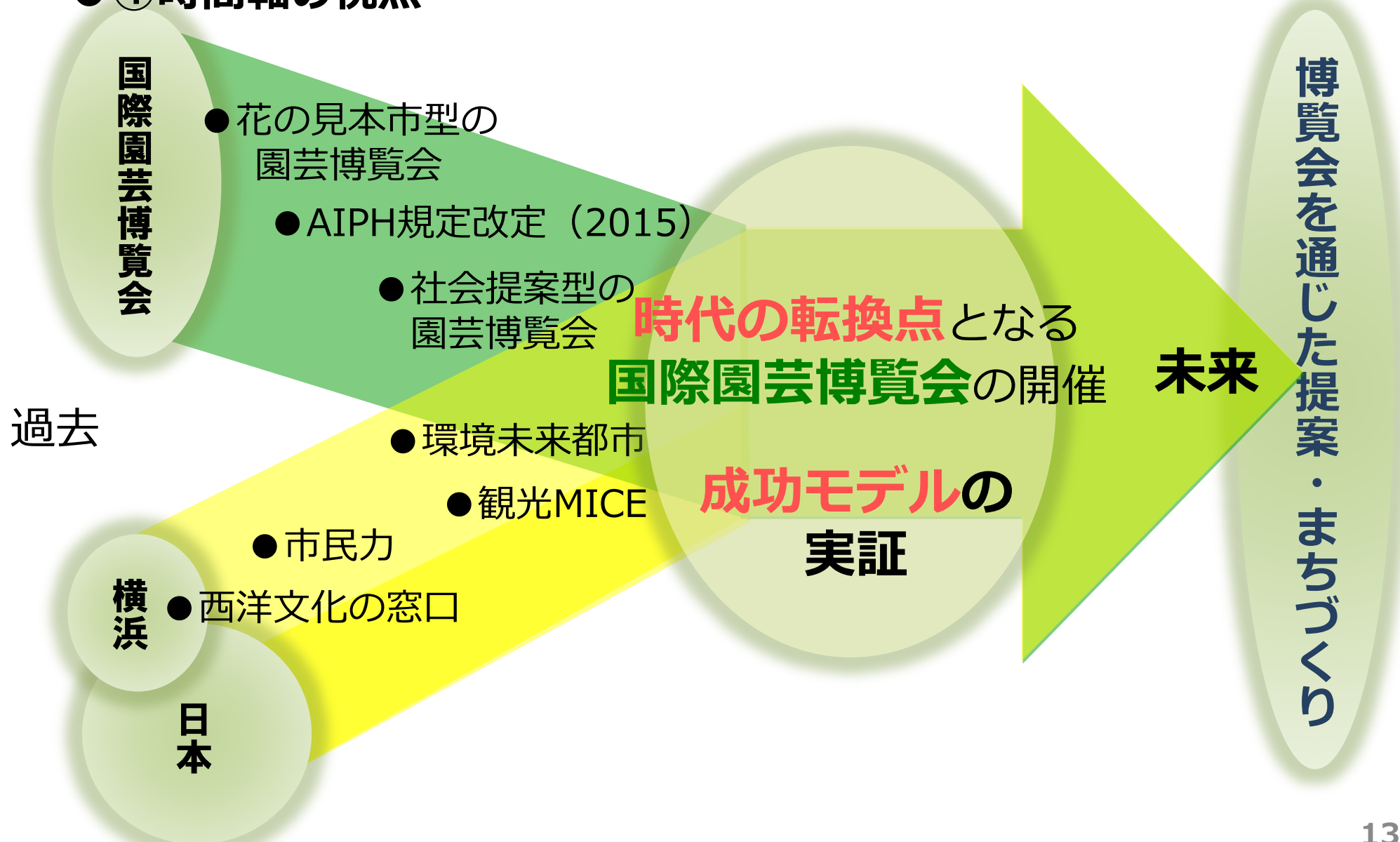
1 開催意義

● ④ 時間軸の視点（博覧会の変遷）



1 開催意義

● ④ 時間軸の視点



1 開催意義

● ⑤ 花・緑・園芸の領域の捉え方-1

日本における
花・緑 園芸

【日本における狭義の定義】

総務省【日本標準産業分類】

- **花き作農業**：主に花きの栽培，出荷
- **花き**：切り花，切り葉，切り枝，球根，鉢物，花き苗，芝，植木など
(美観の創出ないし維持又は緑化などに供する植物)
- **切り花類栽培業**；球根類栽培業；鉢物類栽培業；芝類栽培業；植木（緑化木，庭公園樹等）栽培業；盆栽業
- **園芸サービス業**：築庭，庭園樹の植樹，庭園・花壇の手入れなど。
- **造園業**；植木業（主に庭園作り，手入れなど）

花・緑
園芸の広がり

【AIPH】

- **国際園芸博**：園芸、造園を対象領域。花卉園芸の最新技術、生産品展示という産業的目的と、都市計画、環境政策上の意義を持つ。

【ヨーロッパ】

- **ランドスケープ**：花・緑、園芸を包括。風景を支える下部構造としての土地や自然の基盤、動植物など生態学的要素、歴史・文化や利活用から国土形成まで人的要素も包含。

【シンガポール】

- **シティンアガーデン**：良質なグリーンインフラを基盤に水、エネルギー、経済等が自立する戦略的環境圏域構想

時代に対応した
花・緑 園芸

【求められる新たな方向性】

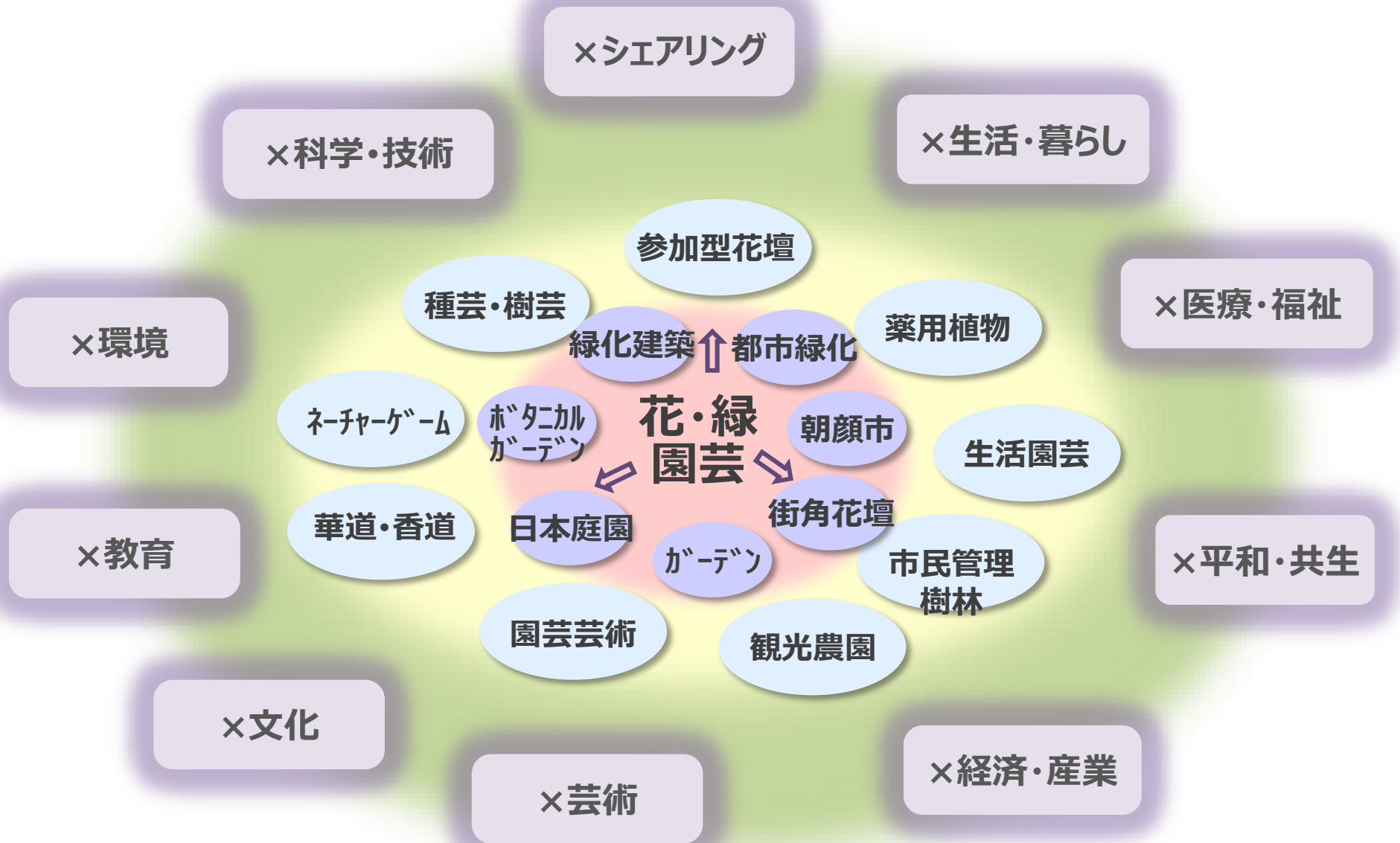
- **関連する分野との連携協働で進む深度化**
： + 環境、 + 経済・産業
- **他分野との連携協働でうまれるハイブリッド化**
： + 科学、 + 技術、 + 芸術
- **人、生活、時代への一層の接近で広がる一般化**
： + シェアリング
+ 医療・福祉
+ 平和・共生

国際園芸博覧会の潮流

内部的な園芸技術の外への
開放・発信「園芸」の領域に「環境」の
要素・課題が付加され高度化「園芸」の暮らしへの接近
世界市民への一般化

1 開催意義

● ⑤花・緑・園芸の領域の捉え方-2



1 開催意義

● ⑤花・緑・園芸の領域の捉え方-3

花
緑
園芸

× 科学・技術

ICT園芸

アグリドローン

植物ミクリー
(生物模倣技術)

× 環境・防災

デジタル
ネットワーク生態系
サービスCity in a
Garden

× 芸術・文化

環境アート

異文化交流

参加協働型
造園アート

× 経済・産業

フラワーアグリ
ビジネスR&D
(研究開発)
ビジネス6次
産業化

× 生活・暮らし

パークカルチャー

エディブル
ガーデン

田園居住

× 医療・福祉・教育

花育
食育

園芸セラピー

環境学習

× シェアリング

デジタル
コファームシェアリングパーク
共(公)園農・園芸
スキルのシェア

× 平和・共生

メッセージ
フラワー

バイオスフィア

里山資本
主義

1 開催意義

● テーマ・キーワードの事例

西暦	国際博（一般博）	国際博（特別博）	国際園芸博
1970年代 ↳ 1980年代	1970年 大阪博 【人類の進歩と調和】		
1990年代 ↳ 2000年代	1992年ベルリア博 【発見の時代】	1990年大阪国際花と緑博 【自然と人間との共生】	1999年昆明世界園芸博 【人と自然21世紀に向けて】
	2000年ハーバ-博 【人・自然・技術】	1992年ジェバ-国際船と海博 【コロンブス：船と海】	2002年ハルミア-国際園芸博 【自然の美にふれる】
	2005年愛知博 【自然の叡智】	1993年大田国際博 【発展のための新しい道への挑戦】	2003年トックIGA 【人・自然・水】
		1998年リボン国際博 【海洋—未来への遺産】	2006年フィンイ国際園芸博 【博愛の心への賛美】
		2008年サゴサ国際博 【水と持続可能な開発】	
2010年代	2010年上海博 【より良い都市、より良い生活】	2012年麗水国際博 【生きている海と沿岸】	2012年フィロ-国際園芸博 【自然と調和する人生】
	2015年ミナ博 【地球に食料を、生命にエネルギーを】	2017年アスタ国際博 【未来のエネルギー】	2016年アタル国際園芸博 【花と子供達】
2020年代	2020年ドバイ博 【心をつなぎ、未来を創る】		2019年北京国際園芸博 【グリーン生活、美しい故郷】
	2025年大阪博(招致中) 【いのち輝く未来社会のデザイン】		2022年カリアド'22 アレメレ 【グリーンシティの醸成】

1 開催意義

●テーマ・キーワードの考え方ー1

【要素】 テーマを考えるにあたり背景となる要素

花

緑

農・食

交流・シェア

委員会からのキーワード

- | | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● ネットワーク、周遊型 ● 都市農業 ● 農体験 ● 食料、生命、暮らし ● 園芸の可能性 ● 園芸文化と新ライフスタイル | <ul style="list-style-type: none"> ● ICT、IoT活用 ● 平和を世界発信 ● 時間消費の新リフト ● 体験型 プラザの展示 ● 本物（植物 生命）の重要性 ● 人の交流 拠点としかけ | <ul style="list-style-type: none"> ● シェアリング ● 体験 ● Livable City ● テンポラリー建築の実験可能性 ● 新たなランドスケープ計画手法 |
|---|---|--|

【表現方法】

Type 1 : 文章タイプ

1990年 国際花と緑の博覧会

【花・緑と人間生活のかかわりを捉え、21世紀へ向けて潤いのある豊かな社会の創生を目指す】

Type 2 : キーワード羅列タイプ

2000年 ハノーバー万国博覧会

【人間・自然・技術】

2003年 ロストックIGA

【人・自然・水】

Type 3 : 言葉の掛け合わせタイプ

2012年 フェンロー国際園芸博

【自然と調和する人生】

2020年 ドバイ博

【心をつなぎ、未来を創る】

1 開催意義

●テーマ・キーワードの考え方ー2 【テーマの表現例】

Type 1 :
文章タイプ

花と緑の価値と可能性を広げ、人の交流・連携とまち・暮らしを豊かにする、新たな農と食を世界・未来に発信する

Type 2 :
キーワード
羅列タイプ

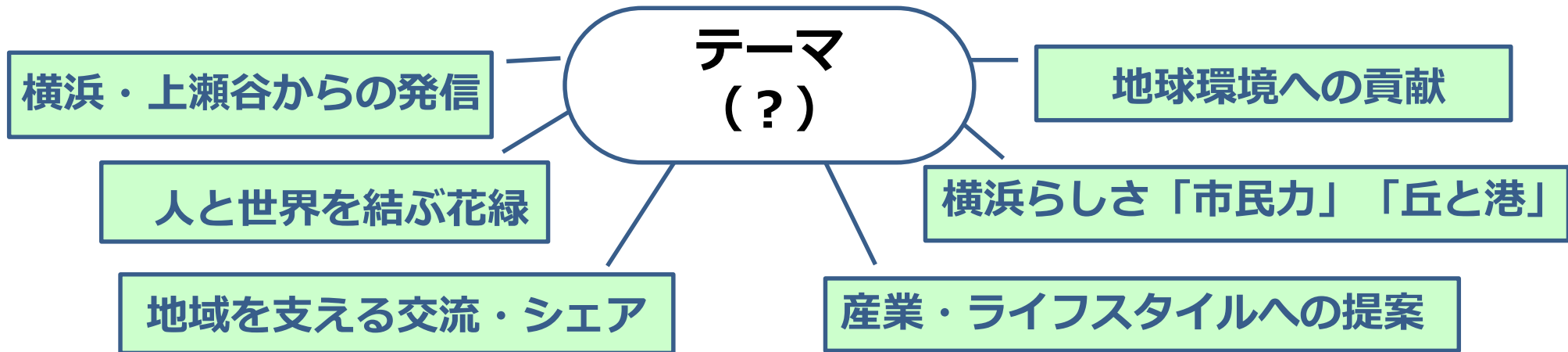
花・緑・農・食・人

花・緑・農・食、人と自然と技術が創る未来

Type 3 :
言葉の掛け
合わせタイプ

つながる未来、花・緑・農・食からの創造

【テーマに込める想い】



1 開催意義

● テーマから考える事業コンセプトの方向性

花、緑、農・食、交流・シェアを主なコンテンツとし、
普遍性と先進性の視点から事業を構成

交流
体験・滞在

歴史

リアル
本物
普遍性

×

バーチャル
技術

先進性

エデュテイ
メント

ハイブリッド
育種

コンテンツ

花

緑

農・食

交流・シェア



Contents

1 開催意義

- ・ 開催意義・テーマの方向性
- ・ 花緑・園芸の領域の捉え方
- ・ テーマ・キーワードの考え方

2 基本事項等

- ・ 開催期間に関する要件
- ・ 想定入場者数に関する要件

3 事業展開

- ・ 開催場所に関する要件
- ・ 事業コンセプト
- ・ 海外とのつながり
- ・ 横浜の市民力

第2回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会

2 基本事項等

平成29年7月10日（月）

横浜市

2 基本事項等

● 開催期間に関する要件

過去の国際博の開催期間

大阪花博	●開催期間 1990年（H2年） 4月1日～9月30日 （183日間）	●季節 初春～初秋 GW及び夏 休み期間を 含む期間
淡路博	●開催期間 2000年（H12年） 3月18日～9月17日 （184日間）	
静岡博	●開催期間 2004年（H16年） 4月8日～10月11日 （187日間）	
愛知博	●開催期間 2005年（H17年） 3月25日～9月25日 （185日間）	
フエフエ博	●開催期間 2012年（H24年） 4月5日～10月7日 （186日）	
アエ博	●開催期間 2016年（H28年） 4月23日～10月30日 （191日）	

AIPHの要件

- A1クラス要件 3か月以上
6か月以下

課題要件

- AIPHの要件充足
- 初春から晩夏（初秋）までの季節変化をソフトや展示に活かす
- 大型な連休や休暇期間を内包
- インバウンドの休暇やニーズを考慮（イースター、清明節、ソング：4月中）
- 天候不順リスクの考慮（3月～4月初旬）
- 本開催前のテスト、メディア発信を考慮

【期間の例】

- ◎ 4月～9月（183日）
- ◎ 3月～4月初旬にプレオープン期間を検討

委員会からのキーワード

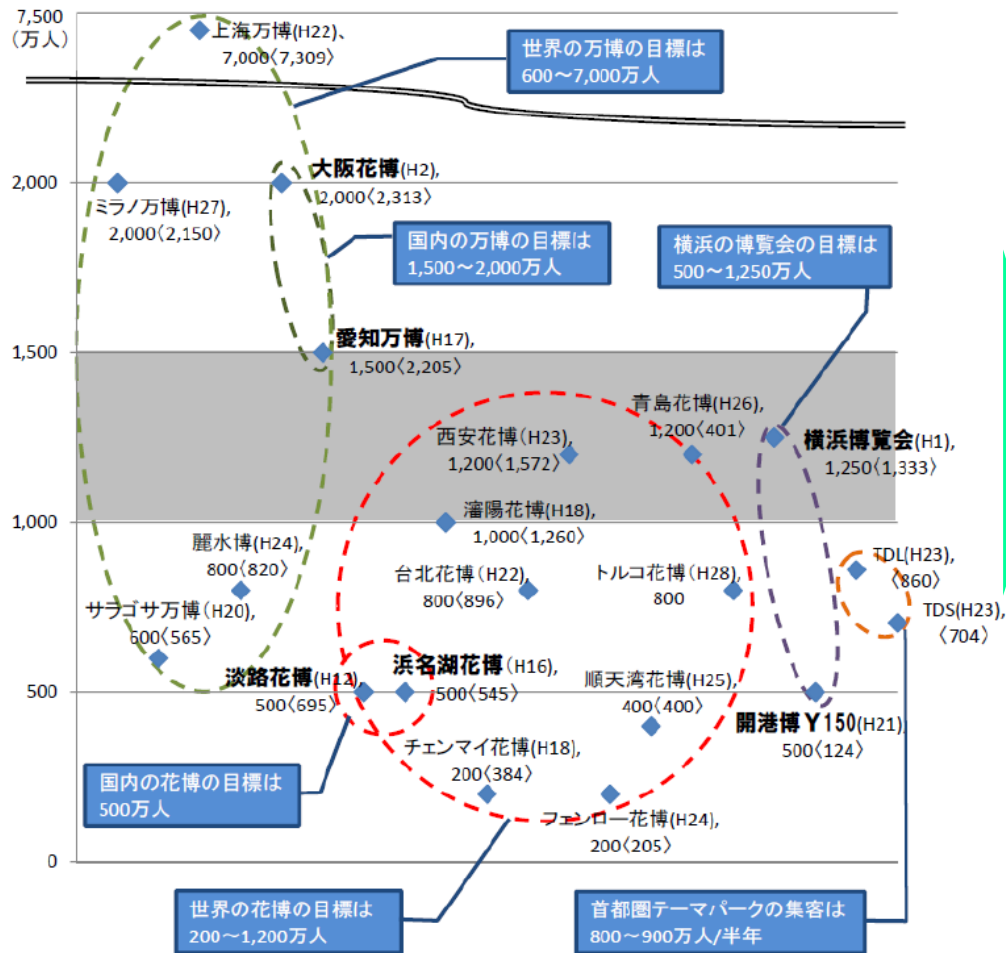
- 日本の自然の四季を楽しめる
- 季節ごとの花植え

2 基本事項等

● 想定入場者数に関する要件

過去の国際博の規模構成

■過去の花博等の集客状況



※ 〈 〉 内は、入場者実績値（単位：万人）

AIPHの要件

● 特に定められていない

- まちづくりを踏まえた考慮
- 入込成功観からの脱却
- 一定のボリュームゾーンの充足

課題要件

日本の国際博覧会
最小：500万人
最大：2,000万人

【想定入場者数の例】

過去の事例・横浜市の実績より
◎ 1000~1500万人を想定

委員会からのキーワード

- 入込達成より社会的成果で成否
- 閉会後の社会・地域への影響が基準

第2回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会

3 事業展開

平成29年7月10日（月）

横浜市

3 事業展開

● 開催規模に関する要件

過去の国際博の規模構成

大阪花博	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場面積：105ha ● 駐車場：52ha（会場外敷地）（約32%） ● ヤード：4ha（会場外敷地）（約2.4%） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体面積：75ha～161ha * 駐車場・ヤードを含む * 地形などを考慮する必要あり
淡路博	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場面積：96ha ● 駐車場：16ha（約17%） ● ヤード：2.4ha（約2.4%） 	
静岡博	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場面積：56ha ● 駐車場：16ha（約17%） ● ヤード：2.7ha（会場外敷地）（約5%） 	
フエ博	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場面積：66ha 	
アナルヤ博	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場面積：112ha 	

【参考】

愛知博	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場面積：173ha ● ターミナル：4箇所 計24.5ha（約14%） * 自家用車駐車場 ● 会場外6箇所計52.1ha
-----	--

AIPHの要件

- A1クラス要件 50ha以上

課題要件 ①	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 過去の国際博から検討 --- 【開催規模の例】 --- ● 80～100ha * 駐車場・バックヤード等を勘案する必要がある
課題要件 ②	<ul style="list-style-type: none"> ● 旧上瀬谷通信地区をコア会場 ● 市内外に複数のサテライト会場 ● これらのネットワークを検討

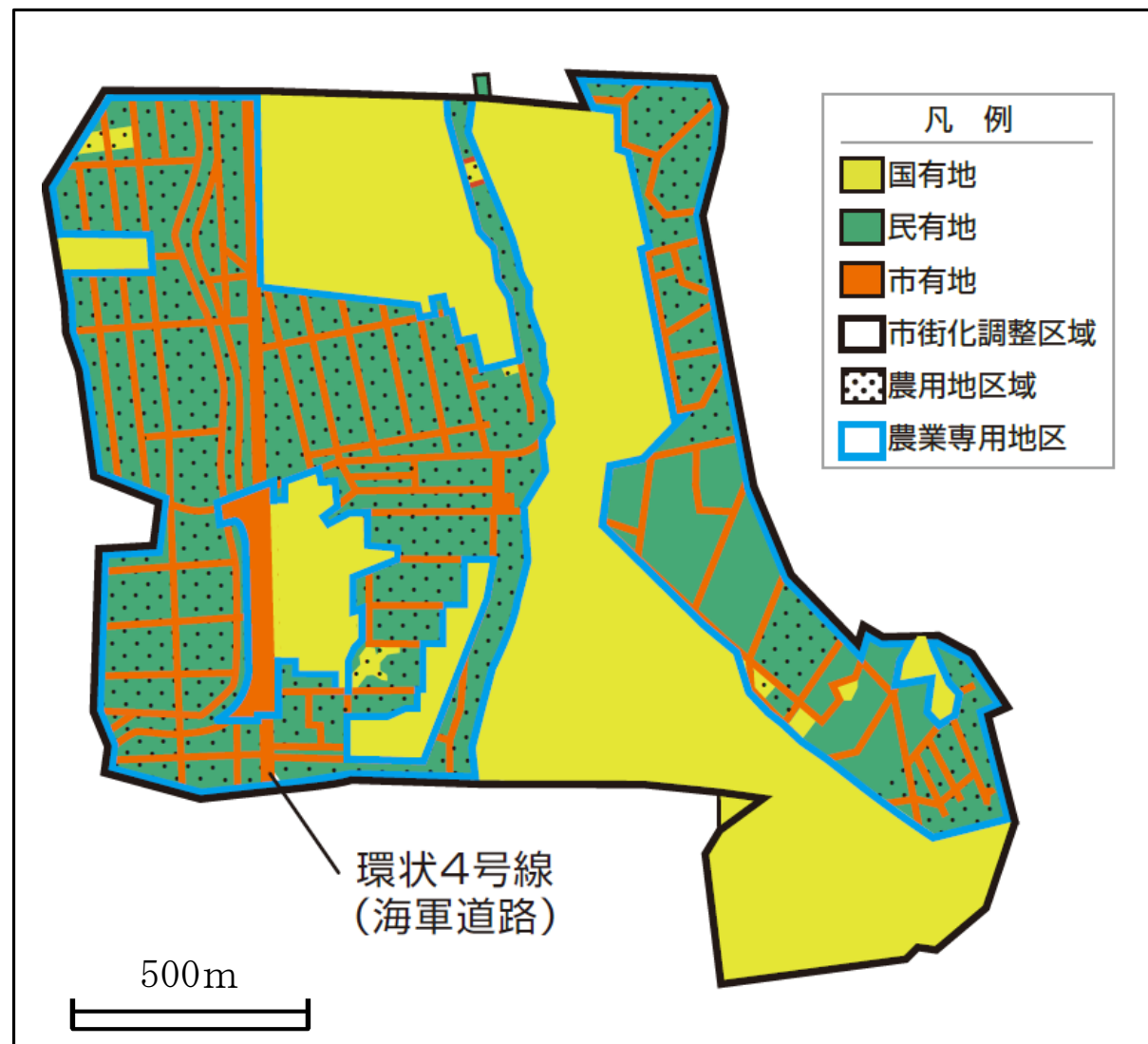
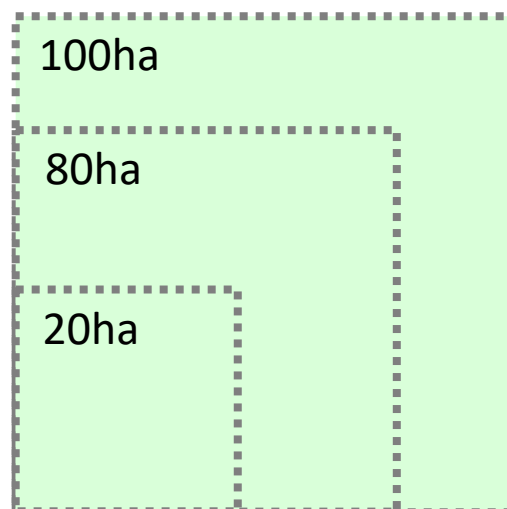
委員会からのキーワード

- 1箇所集中型でない新しい博覧会
- 臨海部に加え市内を周遊
- ネットワークされた会場
- 農業体験

3 事業展開

● 開催場所に関する要件

- 旧上瀬谷通信施設の国有地を中心に会場の配置を検討
- 輸送機関（駐車場等）のアクセスを考慮



3 事業展開

● テーマから考える事業コンセプトの方向性

花、緑、農・食、交流・シェアを主なコンテンツとし、
普遍性と先進性の視点から事業を構成



3 事業展開

● 事業コンセプトと展開例

● 最新技術と本物志向

- ・ 圧倒的な本物感(非日常スケールの花畑)
- ・ 動植物の実物展示(ふれあい・交感)
- ・ R(リアル)とVR(バーチャルリアリティ)のハイブリット
(例:実物のラフレシア+熱帯雨林VR借景)
- ・ 本物花緑体験、地域との交流(育成工程の地元協力、部分的リアル体験、交流イベント展開)

● 多様な文化の交流

- ・ 江戸園芸世界の復元(実物とアカイブ)
- ・ 横浜野菜収穫体験・地産地消レストラン(地元協力による育成と体験交流イベントの内外への波及、閉会後の持続と産業育成)
- ・ 最新園芸科学技術との共作(横浜産の花を育てるプログラム、博覧会での新種開発とアピール)
- ・ 世界の園芸文化とのコラボレーション(花緑に関わる音楽・美術・舞踊・映像他のアーティストと内外の園芸家・造園家・華道家とのコラボ作品の展示、実演、市民参加型ワークショップ)

● 新たなライフスタイル提案

- ・ 集団から個への価値観の転換。(地球環境課題や持続可能社会構築への個人意識を啓発する展示、イベントや関連事業展開)
- ・ 気づきによる行動への導き。(例:「Ido!(私がやる)」を基本メッセージにしたリフト展開)
- ・ モノ、空間、体験をシェア(展示空間、体験交流空間のシェアリング実験、共生や負荷低減を試行体験するリフトプログラムの提言)

● 市民力の発揮と継承

- ・ 横浜市民力発揮の最大化(環境意識・ボランティア精神の高さ、市民参加実績の蓄積)
- ・ 豊富な市内NPOネットワークの活用(人材バンク的連携、市外・世界への広がり)
- ・ 民間企業のCSR(資金、人材、ナレッジ)との連携・協力。

● 先進性・普遍性

- ・ 環境未来都市の環境共生技術のCityソリューション。(緑アップ、エ礼ギン施策、水施策のプレゼン)
- ・ 新たな先導的な園芸博覧会、計画・整備手法の提示。(例:リフトも見せる展示型、博覧会後の産業育成に繋がるR&D型、公園プランニングの新社会実験、低環境負荷の建築新素材・新技術)

● 自然・平和への敬意

- ・ 自然・生きもの・いのちへの敬意を基盤に置き、土地の履歴を踏まえた平和に関するメッセージを重視。(例:縄文杉の様な植物の神秘や尊厳をプレゼンする展示と学びのリフト。平和と命のリスペクトをテーマにしたアートと音楽のイベント、世界にも発信)

3 事業展開

●会場展開イメージ

市内外へ

東京圏

催事イメージ

- ・開閉会セレモニー
- ・ジャパンデー
- ・ワールドデー
- ・都道府県デー
- ・市町村デー
- ・スペシャル (横浜市、神奈川県、政令市、姉妹市、友好港、出展者)デー
- ・コンテスト、表彰
- ・国際会議
- ・国際シンポジウム

会場機能イメージ

- ・ゲート、アプローチ
- ・広場、園路
- ・催事ステージ
- ・パビリオン
- ・展示花壇・展示庭園
- ・情報システム・施設
- ・サービス施設
- ・アミューズメント施設
- ・駐車場
- ・本部
- ・ナーサリー、ヤード

サイバー展開イメージ
～会場に訪れたいくなる仕掛け～

- ポータルHP
- ・相互通信型情報発信
- デジタルアーカイブ
- ・サイバー展示空間
- ・ホテカルチャーターハース
- サイバー活性化
- ・ライブ映像発信
- ・交流サイト
- ・ボランティアネットワーク
- ・大学、学校との連携
- クラウド寄付ファント
- ・シェアリングファント

シェアリング
サテライト

- 例：公共建築
- 例：公共空間

各区会場

サテライト
会場

- 例：スーパリア

各区会場

コア会場

- コアゾーン
：会場機能、展示機能、本部
- アプリケーションゾーン
：参加体験機能、レジデンス機能、他

各区会場

シェアリング
サテライト

- 例：連携美術館
- 例：連携博物館

サテライト
会場

- 例：市民の森群

各区会場

サテライト
会場

- 例：港北NT

サブコア会場

- 都心部

サテライト
会場

- 例：MM21

パーソナル会場(わが家博)
(家庭・企業の個別波及展開)

3 事業展開

● 海外とのつながり

AIPHの要件

- A1クラス要件「10か国以上の参加」
- 会場の5%以上を、正式な海外からの参加者のために確保する。



横浜のポテンシャル

- 姉妹友好都市： 8 都市
 - パートナー都市： 7 都市
 - アフリカ：
第4回（平成20年）第5回（平成25年）**TICAD開催**を契機とした交流・協力の実績。
第7回（平成31年）開催予定。
 - アジア：
平成24年～毎年開催
「アジア・スマートシティ会議」 ※
- | | |
|----------|----------|
| 第1回：11都市 | 第2回：21都市 |
| 第3回：22都市 | 第4回：21都市 |
| 第5回：46都市 | |

※ 公民連携による国際技術協力事業「Y-PORT事業」の一環として、アジア新興国諸都市の市長や国際機関等の有識者が一堂に会し、持続可能な都市づくりの実現に向けた知見を共有。

3 事業展開

●横浜の市民力

環境活動団体

- 公園愛護会 2466団体
- 樹林地関連活動団体 84団体
- 水辺愛護会 92団体

全国に先駆けた公園愛護会制度
約90%の公園で愛護会活動



NPO団体

- 市内NPO法人認証数1,462 法人

政令指定都市で比較

- ・大阪市に次いで2位
- ・人口比では9位

市民協働

- ごみ減量（G30）の成功

ごみ減量30%を5年前倒しして達成
2つの焼却工場を廃止

大学

- 産学官連携に積極的な市内及び近隣の約30 大学と連携

「大学・都市パートナーシップ協議会」
を設立